

## 研究室紹介

### 文学部 地理学科

MIKI Masafumi

三木 理史 教授

1965年大阪府生まれ。関西大学文学部史学・地理学科地理学専攻卒業。同大学院文学研究科日本史学専攻(歴史地理学専修)博士課程後期課程中退。1991年奈良大学文学部に助手として着任。その後、講師、助教授、准教授を経て、現在教授。著書は『都市交通の成立』(日本経済評論社)、『地域交通体系と局地鉄道』(日本経済評論社)、『近代日本の地域交通体系』(大明堂)など多数。

## 近現代の交通史研究

現在まで最も長く取り組んできたのは近現代の交通史研究になります。卒業論文では岡山県東部にあった同和鉱業片上鉄道の建設と鉱山開発の関係をとり上げ、ついで修士論文では三重県の伊勢湾岸に多数敷設された局地鉄道(短距離の鉄道)が近鉄に統合されてゆく過程を明らかにしました。さらに博士論文では日本の局地鉄道の路線形態の変化から鉄道中心の輸送体系の形成を論じました。その後は大阪の都市交通に関わる研究や、20世紀前半に日本が中国東北地域に設立した南満洲鉄道の輸送に関する研究を行ってきました。近年は地方で問題になっている鉄道廃止問題に取り組んでいます。また、交通史からは外れますが、外地の1つ樺太の研究や、明治末から大正期に天皇や皇太子の行幸啓を記念して全国で編さんされた名勝写真帖の研究にも取り組みました。

## 地理学の先生との縁で決めた進路

高校時代は鉄道研究部に入りましたが、旅行と模型中心の活動に馴染めず、鉄道史の研究をしたいと思っていたところ、高校3年の担任(日本史の教諭)から日本史より地理学に進むことを勧められました。大学入学時は日本史への未練が断ちきれず、地理学専攻に躊躇していましたが、偶然自治体史で鉄道関係の公文書調査の経験をお持ちの地理学の先生がおられ、その縁で地理学への進路を決めました。高校で地理を選択していなかったため教科的知識の乏しさは解消できていませんし、地理学の主流である現状分析にも苦手意識が消えていません。

## 地図資料の豊富な奈良大学地理学科

とにかく地図資料が豊富な環境で地理学を学べることは本学の特色だと思います。国土院発行の地形図は現在も改測分を原則すべて購入しているため、1969年の開学以来全国のものほぼ揃い、また一部の先生の献身的努力により整理が行き届いていますので利用も容易です。1968年以前のもので寄贈を受けたコレクションで相当揃いますし、複製版も図書館を含めて所蔵に努めてきました。大型変形版で図書館界では嫌われものの地図が容易に利用できる環境は地理学を学ぶうえで他大学では得られにくい環境だと思います。

## 受験生へのメッセージ

大学の魅力は多様ですが、静かで落ち着いた環境というのも捨て難い魅力の1つだと思います。受験勉強のような即物的な勉強には都会の情報も大事ですが、限られた4年間で多少とも学問的な雰囲気に触れる時間をもつことを考えるのならば、万巻の書物や文化財に囲まれて喧噪を離れた本学の立地条件は捨て難いと思います。

ならぶ Vol.191 ●発行:令和4年9月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山鹿町1500 TEL. 0742-44-1251(代) URL <https://www.nara-u.ac.jp/> E-mail [kounou@oogaki.nara-u.ac.jp](mailto:kounou@oogaki.nara-u.ac.jp) ●編集:奈良大学広報室



ならぶ Na Love

Nara University Bulletin Vol. 191

奈良大学 NARA UNIVERSITY



担当教員：稲垣稜教授、岡橋秀典教授、木村圭司教授、酒井高正教授、武田一郎教授、土平博教授、三木理史教授、芝田篤紀講師、羽佐田紘大講師

「地理学地域調査演習」は3年次ゼミに相当する科目です。1～2年次までに習得した基礎的な知識と技能を踏まえてフィールドワークを実施し、地理学研究の基礎を習得します。大巡検と呼ばれる、3泊程度の宿泊を伴う国内フィールドワークは、この科目で行われます。

大巡検は、担当教員によって実施場所や実施時期などが異なります。気候学、水文学を中心とする地理学の基礎を学ぶ木村圭司教授の同演習では、6月下旬に北海道で現地調査を行いました。

### 北海道大巡検(6月22日～28日)

**担当教員 木村 圭司 教授**  
(地理学、気候学、GIS、リモートセンシング)

2022年度の木村ゼミでは、受講生8人とともに北海道の道東(釧路・知床・根室)をまわる周遊型の大巡検を行いました。奈良と道東では、自然景観や人々の生活など、多くの点で違いがあります。こうした相違点に気づき、それをデータ等を用いて明らかにする練習を行うことが、この大巡検の目的となっています。道東は広く、レンタカーの走行距離は1162kmにおよびました。

## 地理学地域調査演習 (3年次必修)



6次産業化の調査  
なまじゅ (中標津のジェラート)

摩周湖での集合写真  
(右から2番目が木村教授)



展望台から見渡す釧路湿原



北海道の食文化(鮭の親子丼)



知床峠近くの雪渓とフキノトウ(6月22日撮影)



日本最東端の駅(東根室駅)



カムイワッカ湯の滝を登る野村さん(先頭)

文学部地理学科 3年  
**野村 奈央 さん** (富山県立南砺福野高等学校出身)  
梅雨真っ只中の本州から離れ、肌寒さが残る釧路周辺で特徴的な気候を肌で感じ取ることができました。高山植物やヒグマを見たり、北海道の居酒屋の定番であるラーメンサラダを食べたりと、現地でしか学べないことが多くありました。現地調査をもとに、釧路で大地震が発生したときの液状化現象と津波からの避難経路について、研究していきます。

## 社会体験実習 (2年次必修)

担当教員：尾上正人教授、倉光巖教授、中原洪二郎教授、中坊勇太講師、片雪蘭講師

大学での学びを実社会に還元し、実社会での経験を大学での学びにつなげる社会体験実習は、企業やNPO法人等と連携した学外での活動を通して、社会で生き抜くさまざまな「力」を養います。

7月15日(金)、16日(土)には、中原洪二郎教授を担当教員として「K-Pool Project/やなぎまち商店街」でプロジェクト型学習を行う学生たちが、郡山八幡神社(奈良県大和郡山市)の夏祭り子どもに楽しんでもらう屋台を運営しました。

### 郡山八幡神社での夏祭り露店運営

**担当教員 中原 洪二郎 教授**  
(社会心理学、地域ブランド戦略)

まちづくりを考えると、実地での経験はとても重要です。今回の実習ではのべ15人の学生が屋台の運営を行いました。実習後のミーティングでは地域における神社の役割、子どもが祭りに集まる意味、子どもが消費者としてお小遣いをどう使うのか、大人として地域の子どものように接するべきか、など、活発な議論が行われました。



令和4(2022)年度研修先 五十音順

プロジェクト型学習(PBL)
ヴァンパイア株式会社
絵図屋(株式会社明新社)
KCN(近鉄ケーブルネットワーク株式会社)
K-Pool Project/やなぎまち商店街
社会福祉法人あゆみの会
スペシャルオリンピックス日本・奈良
奈良工業高等専門学校ロボコンプロジェクト
企業研修
株式会社スマップ
一般財団法人南都経済研究所



社会学部総合社会学科 2年  
**野澤 かおる さん**  
(静岡県浜松日体高等学校出身)  
本実習では地域の組織との連携を通して、立案能力や自主性といったスキルを磨くことを意識して取り組んでいます。  
担当していた輪投げの屋台で、子どもたちが互いにアドバイスや応援しあっている様子から、子ども社会の中の交流を垣間見れたことが印象深かったです。また祭りという場の機能と重要性について身をもって知り、多角的な視点から考察出来ました。

## Contents

- 1 巻頭特集 授業紹介
- 2 活躍する卒業生
- 3 トピックス
- 7 クローズアップ
- 11 クラブ&サークル活動報告
- 12 入試日程
- 13 インフォメーション
- 15 研究室紹介  
文学部 地理学科 三木 理史 教授



# 基礎演習 I

担当教員：太田仁教授、今井由樹子准教授、卜部敬康講師

1年生の必修科目「基礎演習」。心理学科では、前期開講の「基礎演習 I」で、大学における学びの姿勢と技法を習得します。

7月には、現代美術家協会会員の院南弘樹先生を講師にお招きして、2回にわたる特別講義「コロナ禍にくじけない青春の交流♡—Only one のヴェーダが心をつなぐ—」を行っていただき、学生たちがアートセラピーを体験しました。

## 特別講義(7月20日、27日)

「みなさんに配布された、粘土はどれもみんな同じだけど、みなさんの手によってOnlyoneの素敵な作品になります」「そして、その作品はお互いが見比べた時に作品同士が自然と交流してつながっていく不思議があります」「お互いを認め合うために言葉が障害となることもあります」「みなさんが生み出したヴェーダ(作品)が言葉で言い出せないあなたの気持ちを代弁してくれると思います」

院南先生の言葉に、これまでの評価される作品ではなく、自分を表現する作品への意欲を粘土に込め作成が進められました。



院南弘樹先生



写真左：太田教授(声をかけると学生から笑顔が返ってきます) 写真右：院南先生(「表現することは心を開放することです」)

### 担当教員 太田 仁 教授 (社会心理学)

本授業は、人とつながることが感染予防から難しい状況、ともすれば孤立無援と感じがちな大学環境で自分の心の所在に気づき、仲間とつながる機会を生成することを目的に、2週連続で設定されました。

手にした粘土の久しぶりの感覚を確かめるように何度も何度も捏ねなおしながら、自分の心を大切に映し出すように作られていくヴェーダは、まさしく学生一人ひとりの知識の化身の様でした。そして、色付けされ、眼が入る頃には、不安気だった学生たちの顔が晴れやかになっていったのが印象的でした。



粘土を納得がいくまで練って、慈しむように整形しました。



1週間乾燥させた作品を細部まで納得のいくように磨き上げます。



思い描いた自分色に着色していきます。



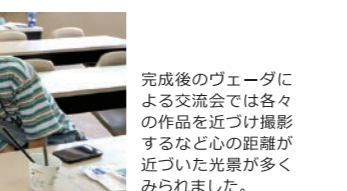
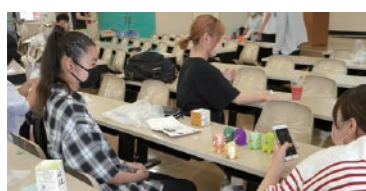
「目は心の窓だから」眼の色(スワロフスキー)を熟慮して選びました。



「あっかんべー」の舌は、人によっては2枚も3枚もつけられました。



一人ひとりの思いがこもった Only oneのヴェーダの完成です！



完成後のヴェーダによる交流会では各々の作品を近づけ撮影するなど心の距離が近づいた光景が多くみられました。

### 社会学部心理学科 1年 田上 真衣 さん (長崎県純心女子高等学校出身)

作品を通して自己理解を深められることや作品の交流が相手を理解する手助けになることを実感できました。また、アートセラピーが治療以外に、日常生活で自己理解や相手と意思疎通を図る手段としても活用できるところに心理学の身近さを感じました。心理学の面白さを再確認する良い機会になりました。

### 社会学部心理学科 1年 西本 穂奈 さん (奈良県立桜井高等学校出身)

作品を作るということ自体が久しぶりだったこともあり、とても楽しかったです。友人たちもそれぞれ個性溢れる作品を作り、私には思いつかないような工夫を凝らしていることが面白いと感じました。また、講義の後には穏やかな気持ちになりました。

# スポーツ実技

※大学で定めている対面授業及び学外授業時の感染防止対策を徹底し、授業を実施しています

担当教員：坂手比呂志先生、高橋哲以先生、田中奏一先生、田原武彦先生、津田真一郎先生、山下伸一先生

「スポーツ実技」と「健康科学」で構成される健康・スポーツ科目。生涯を通じて自らの健康を管理・改善し、健やかに生きる力を身につけることを目的とする科目です。

「スポーツ実技」は担当教員によって活動内容が異なり、自分の興味関心などに応じて履修します。2022年度は、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、ソフトボール、サッカー、硬式テニス、レクリエーション・スポーツの中から選択します。

担当教員の1人である田中奏一先生は、日本フットボールリーグ(JFL)所属サッカークラブである奈良クラブのトップチーム選手です。今年4月から本学の非常勤講師として、サッカーの楽しさや技術、チームスポーツを通じたコミュニケーションなどについて教えています。

## スポーツ実技 I (九) / II (七)

担当教員 田中 奏一 講師 (非常勤)

本授業は、チームスポーツを通してコミュニケーションスキルを習得する中で、サッカーの楽しさを学ぶことを第一の目的としました。授業は、試合を中心に構成し、私も一緒にプレーをしながら和気あいあいとした雰囲気で開催されました。学生が少しでもサッカーに興味を持ち、今後、さまざまな形でスポーツに触れるきっかけとなれば嬉しく思います。



### 文学部史学科 2年 吉田 匠杜 さん (奈良大学附属高等学校出身)

教育職員を目指すならスポーツ実技は必修科目です。経験の少ない競技に挑戦しようと、スポーツ実技 IIでサッカーを履修しました。

お互いをあまり知らない中で4月の授業は、チームプレーもぎこちない感じでした。授業の回数を重ねる毎に会話が増え、最後はコミュニケーションを取りながら楽しくプレーすることができました。並行して技術も身につけ、とても充実感のある授業でした。

6月9日(木)に、田中先生がサッカー部(顧問 村上史朗教授)の活動に参加してくださいました。

「スポーツ実技」を履修しているサッカー部員が、クラブ活動の練習メニューを見てもらいたいとお願いしたことがきっかけでした。

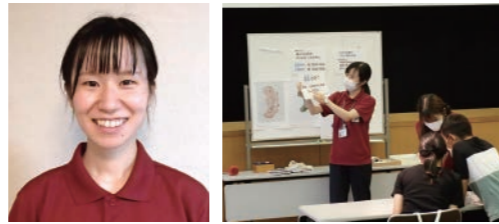




## 「文化財」を広く伝えたい

伊豆の国市郷土資料館(学芸員) 勤務

**荻野 さおり** さん (文学部文化財学科 2019年3月卒業)



### 奈良での生活とUターン就職

小学生の頃から日本史が大好きで、歴史を学びたいと考えていた時、高校の日本史の先生に奈良大学の文化財学科を勧められ入学を決めました。大学生活では勉強と課外活動(雅楽研究会)とアルバイトに追われる中、博物館・美術館や寺院、遺跡などをひたすら巡り、忙しくも充実した日々を過ごしました。卒業後、2021年4月に伊豆の国市郷土資料館に転職しました。

私が現在勤務している伊豆の国市郷土資料館は、静岡県伊豆の国市の文化財の収蔵・展示等を行う市営の施設です。主な業務は企画展の発案・開催、新規収蔵資料の整理・研究、市内の文化財の調査といった文化財保護業務から、講座の開催、学校向け体験学習、出張授業の実施といった教育普及まで、多岐にわたります。また現在、伊豆の国市は2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公北条義時の生誕の地として、ドラマをきっかけに訪れる観光客の方々が急増しています。歴史の面から観光部門を支えるのも重要な業務のひとつです。

### さまざまな時代の「文化財」と向き合う

私は大学で美術史、主に仏像を専攻していました。しかし、郷土資料館ではあらゆる文化財の取り扱いや、日本史全般や郷土史の知識が必要になることが多くあります。例えば、古代の出土遺物の展示、地域の方から寄贈・寄託を受けた明治～昭和期の生活用品の調査、未調査の古文書の整理などです。これらに対応するため、日々学問をアップデートし続けています。郷土資料館は市内外の方々に伊豆の国市の歴史を伝えていくのが仕事です。来館者の方々の感想や、学校向け体験講座で小学生から「楽しかった」と感想をいただくとうれしく、励みになります。

### 文化財学科でもらったもの

先ほど挙げたような学芸員業務では、大学で多角的に学んできたことが生かされています。奈良大学には文化財のあらゆる分野の専門家の先生方のお話が聴けること、膨大な蔵書を誇る図書館があることなど、文化財を学ぶ者にとって最高の環境が揃っています。本物が数多く残る奈良の地で「モノ」を実践的に扱い、広域的に学ぶことができるのは「文化財学科」である強みだと思います。

### メッセージ

一例として私は、一つのことに留まらず、「欲張り」になって色々な経験をする心を心がけました。その時には役に立たないだろうと思ったことが、後になってやってよかったと思う時があります。後悔の無いように、奈良での大学生活を楽しんでください！

5月 May

3日 平城京天平祭2022春  
天平行列に参加



5月3日(火)～5日(木)に平城宮跡で開かれた『平城京天平祭2022春』(主催：平城京天平祭実行委員会、平城宮跡にぎわいづくり実行委員会、奈良県、奈良市)。初日の「平城京天平行列」に今津節生学長と学生たちが参加しました。平城京の時代の天皇や貴族などに扮した約200人が朱雀広場から朱雀門までを練り歩く天平行列は、学生たちにとって奈良の文化や歴史を感じる貴重な経験になりました。



6月 June

16日 奈良大学附属高等学校の生徒が  
「総合的な探究の時間」で大学見学



奈良大学附属高等学校の生徒が、「総合的な探究の時間」における学習活動の一環として本学を見学しました。

6月16日(木)の大学見学では、2年生標準コースの生徒が、文学部地理学科の木村圭司教授による講義「SPY×Family から考える SDGs」を体験し、人気アニメを題材としてSDGsについて学び、考え、ディスカッションしました。

8月22日(月)の大学見学では、1年生標準コース、2年生文理コース、特進コースの生徒が、社会学部総合社会学科の中坊勇太講師による講義「先延ばし」行動のメカニズムと対処法」を体験しました。また、文学部国文学科光石亜由美教授が図書館を活用した卒業論文の作成などについて説明しました。

大学の学びや本学の特長の説明会、図書館や教室棟、展望ラウンジなどを巡るキャンパスツアーも行われ、大学での学びについて理解を深めてもらいました。

7月 July

20日 博物館ミニ展示  
『会津八一のまなざし』開催

7月20日(水)～8月19日(金)に博物館で、ミニ展示「会津八一のまなざしー奈良大学所蔵品からー」を開催しました。

奈良大学博物館と奈良大学図書館所蔵の會津八一関係資料を中心としたこの展示は、文学研究科文化財史料学専攻博士前期課程の大学院生で、奈良大学博物館の学芸員の海田侑希さん、松本るいさん、橋本侑大さんが担当しました。



8月 August

31日 学校教員研修支援オープン講座  
「GIS講座」をWEB開催

本学近隣府県の学校教員を対象に、夏期休暇中の自主研修の充実と教材研究の支援を目的として本学が行っている学校教育研修支援オープン講座は毎年好評を博しています。今年度は、文学部地理学科の酒井高正教授と木村圭司教授を講師として、高等学校「地理総合」の「GIS(地理情報システム)」の導入・活用方法と実習を支援する「GIS講座」を実施しました。

コロナ禍により3年ぶりの開催となった同講座ですが、感染拡大の影響により、当初予定していた対面方式から、WEB方式に変更して実施しました。



## 第27回奈良大学国語教育研究会

8月6日(土)に、奈良大学国語教育研究会が開催されました。同会は国語教員として活躍されている文学部国文学科の卒業生を中心とした集いで、教員としての実践報告や、情報交換等を行っています。また、教育職員を目指す学生も参加し、先輩方の報告から示唆を得ています。27回目のこの日は、対面とZoomのハイブリッド開催を試みました。



国文学科の岸江信介教授(国語学、方言学、社会言語学)の記念講演「大学生の方言分布をさぐる一方言の地域差はこれからも存続するか」では、岸江教授が調査された事例について、方言地図を示しながらのご講演がありました。



岸江教授による記念講演

また、国文学科特別講義として、奈良教育大学の小崎誠二先生に「国語科で、ぜひやってみたいICT活用&絶対にしてはいけないICT活用」と題して、教育におけるICTの現状とこれからについてお話しいただきました。

毎年恒例の交流会では、「今、学校で起こっていること」として、コロナ禍の教育現場について、それぞれの実体験、お悩みなどを語り合いました。交流会については、「刺激的な意見が多かった」「教員が子どもを育て、そうして次世代まで“奇跡”を育んでいくのが、大きな“やりがい”なんですね」との感想も。久々の対面での研究会——記念講演、講義、そして交流会の場に共通したのは、“ことば”と“コミュニケーション”というテーマでした。



## 市議会報告会で学生が市議会議員と意見交換

5月20日(金)に奈良市議会で実施された第9回議会報告会に、文学部国文学科、史学科、文化財学科、社会学部心理学科、総合社会学科の2年生から4年生の学生11人が参加しました。



議会報告会

議会報告会には奈良県内の大学に通う学生への支援対策、観光の推進、文化財の活ロナワクチン対策などについて積極的にの説明を受けました。社会学部総合社会学科4年の水流胤貴さんは、市政の情報発信の工夫について意見を述べました。



議員から概要の説明をうける(写真右：島本副学長)

議会報告会の前には、日頃は立ち入る議会の開催方法について、議員から概要があり、島本太香子副学長(社会学部総合社会学科教授)のアレンジにより、本学学生が議会報告会へ参加し、また議員の見交換をするなど、大学生として地域生活を作る仕組みについて理解を深め、課



議場への赤絨毯の階段で記念撮影



意見を述べる水流胤貴さん

学生が参加し、少子化対策、女性と子どもへの支援対策、地域の安全、食品ロスとごみ対策、コ意見を述べ、議員から関連施策や考え方学科4年の水流胤貴さんは、市政の情報



議長の席を体験

ことのできない市議会議場内に入り、市の説明を受けました。があり、島本太香子副学長(社会学部総合社会学科教授)のアレンジにより、本学学生が議会報告会へ参加し、また議員の見交換をするなど、大学生として地域生活を探る取り組みを行っています。

## 教職課程履修の有志学生による学習支援ボランティア

8月8日(月)～10日(水)に、UR都市機構(独立行政法人都市再生機構)との地域連携活動の一環として、教職課程を履修している本学学生8人が、平城第二団地(奈良市)の集会所に開設された「自習室」(主催:株式会社URコミュニティ奈良住まいセンター、以下「URコミュニティ」)で、小中学生の学習支援ボランティアに従事しました。



※写真提供:株式会社URコミュニティ奈良住まいセンター

本学に隣接する「平城・相楽ニュータウン」は、奈良県と京都府にまたがる日本有数の大規模ニュータウンで、平城第二団地はその一角にあります。団地を管理運営するURコミュニティが、夏休み期間の子供の居場所づくりを目的として「自習室」を開設し、小学4年生から中学2年生まで、3日間でのべ21人の子どもたちが参加しました。「自習室」では子どもたち自身が学ぶことが大切であり、本学学生はそのサポート役です。最初は、子どもたちにも学生たちにもぎこちなさや戸惑いがありましたが、すぐに打ち解け、学生たちは子どもたちに寄り添い、熱心に勉強の相談に応じました。

URコミュニティによる開催後のアンケートでは、「教え方が丁寧だった」「わかりやすかった」「楽しく勉強できた」など、参加した子どもたちからの学生に対する評価も高く、また同様の自習室を開催して欲しいとの声が多く寄せられたとのこと。学生たちにとっても、小中学生たちと自然な形で接する絶好の機会となり、教育実習に先立ち、貴重な経験を積むことができました。

今後も奈良大学はさまざまな形での地域連携活動を行ってまいります。





■ クローズアップ③

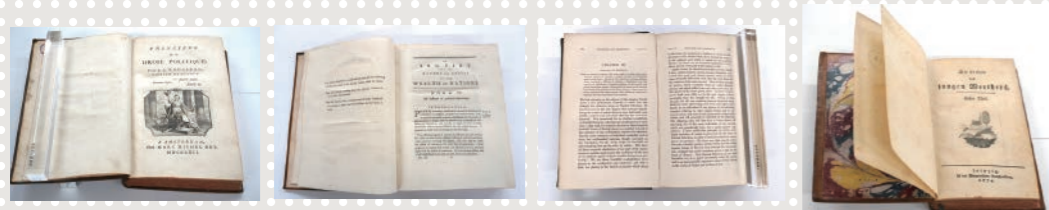
# 奈良大学図書館企画展 『世界を変えた書籍』

## —奈良大学所蔵洋書稀観本の世界—開催

7月24日(日)～9月30日(金)に、本学図書館展示室にて文学部史学科の足立広明教授(西洋古代史)の企画・監修による展示を開催しました。本学は和書漢籍を中心に貴重な史料を豊富に所蔵していることで知られていますが、今回の展示では、『世界を変えた書籍』をテーマに、奈良大学図書館および文学部史学科が所蔵する洋書の稀観本を紹介しました。

\*文学部史学科所蔵

### 世界を変えた、あるいは歴史的に重要な書籍



ルソー『社会契約論』  
(初版/1762年)

アダム・スミス『国富論』  
(初版2巻/1776年)

チャールズ・ダーウィン『種の起源』  
(初版/1859年)

ゲーテ『若きウェルテルの悩み』  
(初版/1774年)

### 西洋人から見た日本の記録



マンデヴィル『東方旅行記』  
(ラテン語第4版/1495年頃)

リチャード・ウィルズ『東西インド誌』  
(初版/1577年)

オルテリウス『アジア図』\*  
(1585年)[史学科所蔵]



ルイス・フロイス『2つの新しい日本年報』  
(1598年)

エンゲルベルト・ケンペル『日本誌』  
(初版2巻/1727年)

ツンベルグ『日本紀行』\*  
(仏語初版/1796年)[史学科所蔵]

### パピルス史料



パピルス断簡『金銭借用書』\*  
(6世紀)[史学科所蔵]

本学図書館は、15万冊を超える文化財専門書など、数多くの学術書・学術雑誌を所蔵しており、蔵書数は57万冊にのぼります。そのうち約53万冊が開架図書として自由に閲覧でき、学生や研究者(教員)にとって充実した研究環境といえます。

また、閉架書庫には約4万冊が収められています。貴重書と呼ばれる書籍やそれに準ずる蔵書は、破損や劣化の恐れがあるため、通常は閲覧できません。年4回、本学6学科の教員が順番に担当して開催する企画展では、展示テーマに沿った貴重書を紹介・展示することがあります。

■ クローズアップ④文学部史学科史料調査

# 奈良県御所市の旧家に伝わる 古文書の調査

参加教員：井岡康時教授、河内将芳教授、木下光生教授、  
外岡慎一郎教授、村上紀夫教授



文学部史学科の教員・学生有志と奈良県御所市文化財課との共同による古文書調査が始まりました。今回は、8月23日(火)から25日(木)まで、御所市立図書館の部屋をお借りして、御所市内の旧家に所蔵されている古文書の調査を行いました。

3日間の調査では、史料の目録を作成するためのカードを作成しました。カードは原則として史料1点につき1枚作成し、史料の表題・内容・作成者・宛名などを記入します。このカードを基に、後日目録を作成します。

調査に参加した学生・大学院生5人は、まずは辞書を片手に自分の力で史料解説に挑みました。わからない部分は、教員の助言や説明を受けて、史料の内容を理解し、カードに記入していきました。



### 村上 紀夫 教授 (日本文学史)

御所市域のみならず、奈良県の地域史を知る上でも重要な旧家の古文書調査が始まりました。これまでまとまった調査がされていない貴重な史料群です。調査に参加した学生たちには、貴重な文化財で、歴史研究の基礎にもなる古文書が所蔵者の手でどれだけ大切に伝えてこられたのか、そしてどれほど慎重な調査を経て全体像が解明されていくかという文化財の保護と歴史研究の最前線の様子を調査のなかで学んでほしいと思います。



史料を撮影する河内教授



村上教授から助言を受ける濱松さん

### 文学部史学科 4年 濱松 里美 さん (島根県立浜田高等学校出身)

一度にたくさんの古文書に触れることで、古文書の連続性に気付いたり、取り扱いや調査方法を知ることができたりと、座学で授業を受けるのとは違った学びがありました。

また必ず近くには先生がいてくださり、分からないことがあればすぐに聞いて疑問をその場で解消できる環境だったのもよかったです。

3日間と短い期間での調査でしたが、非常に良い経験となりました。





# Club & Circle

## 天文部



奈良市の平城宮跡で8月19日(金)～21日(日)に平城京天平祭2022夏天平たなばた祭り(主催:平城宮跡にぎわいづくり実行委員会、奈良県、奈良市)が開催されました。

天文部の学生たちが、夏の夜空を天体望遠鏡で楽しむ天平☆星めぐり(星空観賞)のイベントで、株式会社ビクセンの星のソムリエ®重信修氏の総合説明・進行のもと、星の解説や参加者の観望のサポートを行いました。

※写真は8月19日(金)の準備の時間に撮影。

### 部長 並河 晃平 さん / 文学部史学科3年 (京都府立朱雀高等学校出身)

平城宮跡で星を観賞するイベントをお手伝いする貴重な機会をいただいたことに感謝しています。

お客様に説明することが初めてという部員が多く、子どもから大人まで幅広い年齢の人が対象のイベントだったので細やかな気配りが必要でしたが、まずは全員が相手にわかりやすく伝えることを心がけ、3日間で7回の観望を無事終えることができました。参加者の楽しそうな姿を見ることができてよかったです。

DATA ●部員数: 54人 ●活動日: 月・金曜日 ●活動場所: H-119



## 生物研究会

生物研究会の学生12人と顧問の文学部地理学科岩崎敬二教授(動物生態学、保全生物学、生物地理学)が7月24日(日)に佐保川の水辺の楽校付近(奈良県奈良市)で水生動物の調査を実施しました。

岩崎教授によると、奈良市街を流れる佐保川は、20年前まではコンクリートブロックの護岸堤防で囲まれた人工的な河川で、汚れもひどく、生物がほとんど棲んでいない川でしたが、奈良県による水辺の自然復元工事が進んで、写真のように川辺の自然が復活したとのこと。今回の水生動物の調査により、どの程度水質がきれいになり、どれほど多くの動物たちが棲めるようになってきているのかを確かめました。

8月には、木津川の支流の白砂川(奈良市広岡町と京都府笠置町の境界)でほぼ同じ調査を行い、以前からずっと自然度が高いままである山間を流れる白砂川の調査結果と佐保川の調査結果を比較しました。

### 会長 作田 倫一 さん / 文学部地理学科3年 (奈良県立大和中央高等学校出身)

普段は獣班、水生生物班、鳥類班、爬虫類班に分かれて活動していますが、この調査は、有志が自然調査班を結成して行いました。結果は、11月の青垣祭(大学祭)でポスター発表しますので、ぜひ見に来てください。そして、自然や生き物に目を向け、それを守っていくために何が出来るのかを考えてもらいたいです。

DATA ●部員数: 31人 ●活動日: 金曜日 ●活動場所: H-107



# 入試日程

<試験日程の変更、選抜方法の変更について>

今後、試験日程の変更、選抜方法の変更が発生した場合は、速やかに告知、対応を行いますので、本学ホームページ等でご確認ください。



奈良大学 入試情報サイト

試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など	
総合型選抜(AO入試)第1回目	文化財	エントリー:9/21(水)締切 本出願:10/5(水)~10/12(水)	試験① 10/1(土)<オンライン> 試験② 10/22(土)<対面>	10/28(金)	学科別に異なる
	国文	エントリー:9/30(金)締切 本出願:10/5(水)~10/12(水)	10/22(土)<対面かオンライン>		
	史				
	地理				
	心理				
総合社会					
総合型選抜(AO入試)第2回目	国文	エントリー:11/1(火)締切 本出願:11/8(火)~11/22(火)	12/3(土)<対面かオンライン>	12/10(土)	学科別に異なる
	史				
	地理				
	心理				
総合社会					
総合型選抜(AO入試)第3回目	国文	エントリー:2023・2/27(月)締切 本出願:2023・3/2(木)~3/9(木)	2023・3/19(日)<対面かオンライン>	2023・3/20(月)	学科別に異なる
	史				
	地理				
	心理				
総合社会					
総合型選抜 校友特別推薦	10/31(月)~11/9(水)	11/19(土)	12/1(木)	口頭試問	
学校推薦型選抜 指定校制推薦入学選考	10/31(月)~11/9(水)	11/19(土)	12/1(木)	口頭試問	
学校推薦型選抜 前期・後期	前期(基礎学力型A、課題提示型小論文)	10/31(月)~11/14(月)、 窓口11/15(火)	11/24(木)	12/1(木)	基礎学力型は受験・判定ともに2科目
	前期(基礎学力型B、学科別小論文)		11/25(金)		
	後期(課題提示型小論文)	12/1(木)~12/12(月)、 窓口12/13(火)	12/17(土)	12/22(木)	
一般選抜	S日程	2023・1/4(水)~1/18(水)、 窓口1/19(木)	2023・1/26(木)	2023・2/1(水)	受験・判定ともに3科目
	A日程		2023・1/27(金)		受験は3科目、判定は高得点2科目
	B日程	2023・1/4(水)~2/2(木)、 窓口2/3(金)	2023・2/8(水)	2023・2/12(日)	受験は3科目、判定は高得点2科目
	C日程	2023・2/5(日)~3/8(水)、 窓口3/8(水)	2023・3/15(水)	2023・3/18(土)	受験・判定ともに2科目
一般選抜 大学入学共通テスト利用入試	A日程	2023・1/4(水)~2/3(金)	2023・1/14(土)、1/15(日)	2023・2/12(日)	3科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)
	B日程	2023・2/5(日)~2/24(金)	2023・1/14(土)、1/15(日)	2023・3/4(土)	2科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)
	C日程	2023・2/23(木・祝)~3/10(金)	2023・1/14(土)、1/15(日)	2023・3/18(土)	2科目で判定 (必須、選択は学科により異なる)
編入学試験・社会人編入学試験・社会人入試	10/31(月)~11/9(水)	11/19(土)	12/1(木)	口頭試問、小論文、専門科目、英語 (口頭試問以外は試験制度および学科により異なる)	
専門高校・専門学科・総合学科対象入試、地域貢献入試、芸術入試	10/31(月)~11/9(水)	11/19(土)	12/1(木)	口頭試問、小論文、専門科目、英語 (口頭試問以外は試験制度および学科により異なる)	
外国人留学生入試	10/3(月)~10/24(月)	11/19(土)	12/1(木)		
試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など	
大学院 春季	2023・1/6(金)~1/18(水)、 窓口2023・1/19(木)	2023・2/15(水)	2023・2/18(土)	試験制度および専攻により異なる	



■ 近刊紹介



文学部国文学科の木田隆文教授が10年にわたって収集した  
幻の文学雑誌『上海文学』の完全復刻版が刊行！

木田隆文先生(日本近現代文学)が編集した『上海文学復刻版』(琥珀書房)が2022年7月26日に刊行されました。木田先生は原本の収集・復刻と、解説冊子の「解題」を担当しています。

◆戦時下上海で刊行された邦人文学雑誌『上海文学』

『上海文学』(1943年4月～1945年5月)は、第二次世界大戦時に上海で出版されていた文学雑誌で、中国で出版されていながらも、日本語で書かれています。当時の上海は日本の支配下にあり、多くの日本人が暮らしていました。『上海文学』は、その地で活動した日本文学者を集めた上海文学研究会が刊行した雑誌です。同誌は奈良県出身の池田克己が編集者を務め、小説「ひかりごけ」で知られる武田泰淳や、「長江デルタ」で芥川賞を受賞した多田裕計、日中の文化人交流に影響を与えた内山完造ら、文学史上も著名な作家たちが多数執筆していました。

◆戦争の傷として封印された海外の日本文学を、10年かけて発見。

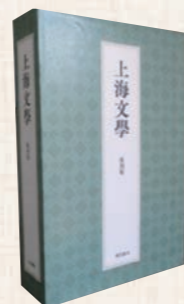
『上海文学』は日本が戦争を遂行するための宣伝媒体としての役割も持っていました。そのためこの雑誌は、戦争の負の側面を表す無価値なものとして処分され、その全貌は長らく謎となっていました。木田先生は、2010年代に創刊号と3～5号を発見。さらに昨年6月、所在不明だった第2号を発見して全5号すべてを収集しました。この調査・研究の過程で、木田先生は、戦後派作家として知られる武田泰淳が、すでに戦時中に『上海文学』で小説を発表していたことを発見するなどの成果を収めました。今回出版された復刻版の解説書も、木田先生の調査・研究の成果が盛り込まれています。

◆幻の『上海文学』を完全復刻！

『上海文学』は、現在、発行地の中国でも閲覧できる本が残っておらず、研究者の間でも復刻が長く待たれていました。本復刻は原本の体裁をそのまま復元し、そこに別冊の解説をつけることで、『上海文学』の雰囲気と意義が広く伝わるように工夫されています。それは外地文学や日中関係を研究するうえで貴重な本資料を、広く世の中へ還元したいという木田先生の願いから生まれたものです。



長い間、幻とされていた『上海文学』原本



『上海文学』復刻版

- 発行日 2022年7月26日
- 出版社 琥珀書房
- 原本 奈良大学図書館、個人蔵
- 主要執筆者 会田綱雄/朝島雨之助/池田克己/  
内山完造/兼松信夫/黒木清次/  
小泉譲/多田裕計/武田泰淳/  
陶晶孫/八森虎太郎/広瀬庫太郎
- 解題 木田隆文(奈良大学教授)  
趙夢雲(東大阪大学教授)

「抵抗／協力の二分法では片付かない、戦時上海の複雑な様相を解きほぐす」

文学部 国文学科 木田 隆文 教授

『上海文学』は、戦時上海の文芸文化の実態を克明に証言する文献です。同誌には武田泰淳ら著名作家の未発表作品が掲載されているだけでなく、現地作家のさまざまな活動、さらには同地の言論・メディア・文芸文化政策の実態を知らせる重要な情報が記されています。また同誌は、その使命として戦争協力への使命を強く宣言していましたが、そこに掲載された作品を読み解くと、それぞれの作家が戦争に協力する素振りを見せながら、それをさまざまな表現技法を駆使して裏切ってゆくさまも見受けられます。『上海文学』には、外地、そして戦時下を生きる作家たちの多様な文学的試みや戦争への対応がよみとれるとともに、抵抗／協力の二分法では割り切れない日本統治下上海の言論・文化状況の複雑さ自体が示されています。本復刻の刊行が、日本統治下上海の新たな研究ステージを生み出すことを期待しています。

■ 学生生活における相談先

◆総合相談受付:  
学生支援センター 学生担当  
どこに聞いたらよいのか、誰に聞けばわかるのかなど、学生生活で何か困ったことがあれば、気軽に相談してください。  
◎場所/A棟(本部棟)2F  
◎時間/月～金曜日 8:30～16:50 土曜日 8:30～12:30  
※夏期・冬期・春期休業中や試験期間、大学行事等により時間が変更になる場合があります。

◆学生相談室  
学生の個人的な悩みや諸問題の解決にできるだけ示唆・助言を与えるため、学生相談室が設けられています。相談相手は、相談室のカウンセラー(臨床心理士)と学生相談員(教員)です。予約方法などの詳細はホームページで確認ください。  
◎場所/J棟(総合研究棟)1F  
学生相談室・サポートルーム(J-104)  
◎開室時間/月～土曜日 10:00～17:00  
※祝日を除く  
※夏期・冬期・春期休業中は、基本的に閉室しています。  
学生相談室(奈良大学ホームページ)  
<https://www.nara-u.ac.jp/life/counseling/>



学生相談室

◆障がいのある学生の支援体制  
学生相談室では障がいや疾患等のある学生が大学で支援・配慮を受けるための申請手続きや、一人ひとりのニーズに応じたサポートを行っています。障がいや疾患等のある学生で、修学上の心配ごと、困りごとなどがありましたら、学生相談室にご連絡ください。学生支援センター学生担当・教務担当、授業担当教員等と連携しながら支援を行います。

◆医務室  
看護職スタッフが在室して、学生の皆さんが心身ともに健やかに学生生活を過ごせるようサポートしています。構内での病気・ケガの応急処置の他、健康相談、病院の紹介等の助言も行っています。  
◎場所/J棟(総合研究棟)1F J-103  
◎開室時間/月～金曜日 9:00～17:00  
※祝日を除く  
土曜日 9:00～12:30 ※祝日を除く



医務室

附属高等学校

附属高等学校

ふれあい祭りに参加

7月31日(日)西大寺近隣公園で行われた地域住民の交流を目的とした「ふれあい祭り」(西大寺北地区自治協議会主催)に、本校の三味線部・軽音楽部・なぎなた部・美術部が参加しました。今回の参加は、以前実施した「サントウンプラザ すずらん館」での「お花見コンサート」を見た地域の方にお声がけいただき、実現しました。ステージでは、三味線部の独奏のほか、軽音楽部と三味線部の演奏となぎなた部による演武、三味線部の演奏と美術部によるライブペインティングなどといったクラブの枠を超えたコラボレーションを披露しました。お世話になっている地域の方々に日頃の取り組みの成果を見ただけことができ、とても良い経験となりました。



附属幼稚園

年長組の夕涼み会

7月21日(木)に夕涼み会を開きました。昼過ぎに登園してきた子どもたちは、玄関やホールの飾り付けを見て「わぁ、きれい！」と声を上げ、ワクワクしている様子。スタンプラリーではスパーボールすくいや輪投げなど4種類のアクティビティを楽しみ、景品をもらいました。さらにスタンプラリーのゴールでは光る玩具をもらい、大喜びでした。おやつのかき氷は、子どもたちが白玉団子、フルーツ、ラムネを載せ、シロップをかけて自分好みに仕上げました。夕ご飯は、給食室の先生が人気メニューを作ってくれました。屋台風に並べられたやきそばやからあげなどに、子どもたちは目をキラキラさせ、「おいしい！」と楽しそうに食べていました。最後に、ホールを暗くして影絵や鬼滅の刃の劇を見ました。大盛り上がりで終了した夕涼み会は、夏休み前のステキな思い出になったのではないのでしょうか。

